

計の症例も多数あり今後ともその追跡データは貴重な資料となる。

大国氏らの症例報告は、症状は軽いが治療に抵抗性の慢性反復性心房性頻拍症の日常とくに学校での管理指導の点に、再評価の必要性を示した。今後同様の症例の長期観察と数の集積が望まれる。

6. トリソミー18症候群と心奇形

赤 松 洋 (日赤医療センター新生児未熟児科)

菌 部 友 良 (同 小児科)

安 藤 武 士 (同 心臓血管外科)

過去8年間に当センター NICU および未熟児室に入院したトリソミー18症候群(染色体検査では1例のみ転座型で他はすべて full trisomy) は28例を数え、昭和58年には昭和55年と同様7例の多数例を経験した。28例の臨床的事項は表16に示したが、その平均値の主なもの、母親の年齢は31.0歳、出産回数0.8(0~2)、出生体重1988グラム、妊娠週数39.5(1例を除いてすべて SFD 児)、アプガー得点5.2、入院日齢0.7(80日目入院の1例を除く)で、男/女比は1:1.8で女兒に多く、2歳3カ月生存した1例を除けば、死亡日齢は生後48.3日で、ほとんどが新生児期または乳児期初期に死亡している。27例の剖検所見から心奇形を分類すると、VSD、PDAが15例(55.6%)で圧倒的に多く、ASDの合併は4例に、TOF、DORV、CoAが各2例に、その他 PAPVR、ECDの各1例で、1例にのみ心奇形が認められなかった。

28例中院内出生児は52年3例、55年3例および58年の2例で、2年間隔で発生する興味ある結果を示し、その年度内の全出生児に対する発生率はそれぞれ1:900、1:1000 および1:1600であるが、8年間の総出生数に対する発生率は1:3000で、これまでの報告とほぼ一致した。発生疫学的に28例の月別発生数を調べると、ほぼ各月に発生がみられ、年度の前後半または季節的な変動も認められなかった(図30, 31)。

表16. トリソミー18 症候群28例の臨床的事項

症例	氏名	母親年齢	出産回数	分娩様式	羊水過多	アプガール得点	出生体重g	妊娠週数	性別	入院日齢	死亡日数	剖検	心奇形	出生
1	四〇〇嘉子	37	2	BE	+	?	2,280	40	♀	2	27	+	DORV, PDA.	外
2	桜〇京〇	28	1	CS	-	6	2,132	42	♀	0	306	+	VSD, PDA.	内
3	金〇洋〇	33	2	SV	-	6	2,264	41	♀	0	75	+	VSD, PDA, CO/AD	内
4	多田 典〇	28	0	BE	-	1	2,607	39	♀	0	36 h	+	VSD, PDA.	内
5	弘〇美知〇	26	0	CS	-	6	1,670	40	♀	0	11	+	VSD, PDA. *44XX+18inV(9)	外
6	松〇公〇	30	0	EE	-	3	2,397	42	♀	80	132	+	VSD, PDA.	外
7	青〇美〇	31	2	SV	-	8	2,250	41	♀	8	25	+	VSD, PDA.	外
8	片〇初〇	27	0	CS	-	3	2,400	41	♀	0	25	+	PAPVR, PDA.	外
9	井〇善〇	32	2	BE	+	6	2,250	39	♂	0	(2才3カ月)	+	VSD, ASD, PDA, CO/AD	外
10	小〇睦〇	25	0	CS	+	3	2,140	42	♂	2	3	+	ECD, 左腕頭静脈環流異常	外
11	森〇千枝〇	32	1	CS	-	6	1,880	40	♀	0	11	+	上大静脈環流異常 VSD, PDA.	外
12	藤〇睦〇	38	0	CS	+	9	2,303	41	♀	0	162	+	VSD, ASD, PDA.	内
13	長〇〇京〇	33	2	SV	-	9	2,180	41	♀	6	13	+	VSD, PDA.	外
14	佐〇チカ〇	35	2	SV	-	7	1,580	39	♀	0	59	+	VSD, ASD, PDA.	外
15	野〇ヒデ〇	45	1	CS	+	2	1,410	36	♀	0	5	+	VSD, PDA.	内
16	富〇知津〇	30	1	SV	-	3	2,330	41	♂	0	8	+	VSD, PDA.	外
17	今〇雪〇	28	1	SV	+	6	2,576	42	♀	0	50	-	?	内
18	青〇文子	27	0	CS	-	8	2,400	42	♂	0	27	+	DORV, PDA.	外
19	渡〇ツヨ〇	38	0	BE	+	3	1,970	38	♀	0	100	+	VSD, ASD.	外
20	浜〇真〇	28	1	SV	-	6	2,040	40	♂	0	12	+	VSD, PDA.	外
21	本〇みち〇	34	1	SV	+	5	1,440	34	♂	1	3	+	VSD, PDA.	外
22	三〇敬〇	29	0	CS	-	6	1,330	34	♂	0	0	+	PDA.	外
23	幾〇仁〇	40	0	CS	-	3	1,678	40	♂	0	51	+	TOF.	内
24	江〇容〇	31	2	SV	-	5	2,300	42	♂	0	72	+	VSD, PDA.	外
25	西〇佳寿〇	28	1	SV	-	6	1,810	40	♂	0	87	+	(-)	内
26	高〇幸〇	27	0	BE	+	2	1,148	33	♀	0	8	+	PDA.	外
27	松〇美〇	22	0	SV	-	8	1,705	38	♀	0	27	+	VSD, PDA.	外
28	鎌〇道〇	27	1	SV	-	5	1,200	37	♀	0	6	+	TOF.	外
	平均	31.0	0.8			9/28	1,988.2	39.5	10/28♂	0.7	48.3			8/28内

BE: 骨盤位□出術, CS: 帝王切開, SV: 頭位自然分娩 *染色体

図 30. トリソミー18症候群の年度別入院数

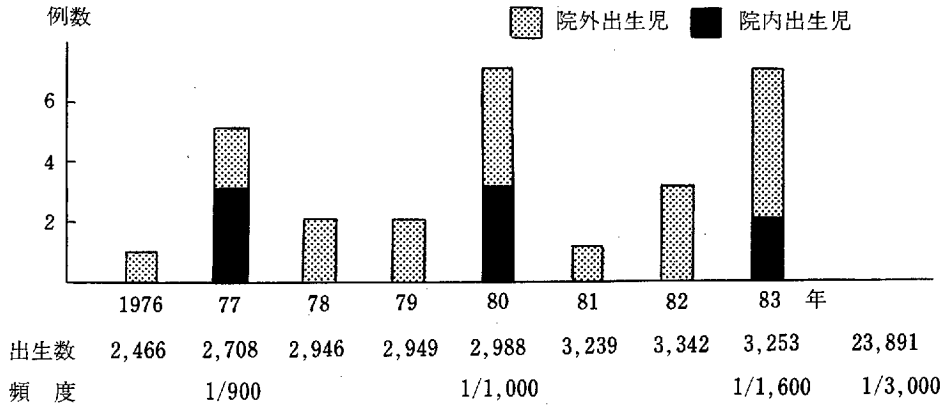
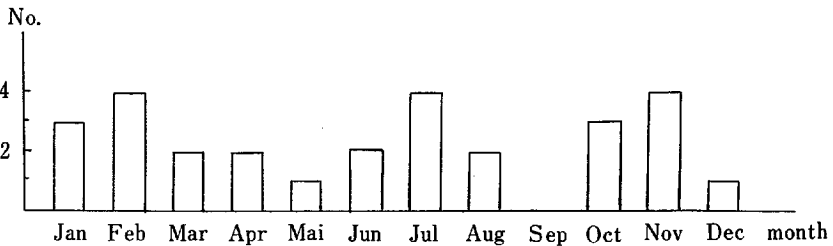


図 31. トリソミー18症候群の月別入院数



7. あとがき

本研究とくに新生児期心疾患の調査は多くの施設の多くの医師，看護婦，技師，その他の方々の御協力で可能となりました。ここに参加下さいました医師の名前を記し感謝の意を表します。（順不同，敬称略）

秋場伴晴，芳川正流，木野田昌彦，渡辺真史，坂垣勉，吾妻加奈子，芳賀恵一，矢崎索，三須久子，斉藤慶一，小林代喜夫，大滝晋介，沢田博行，太田八千雄，浜田勇，藪部友良，